

国語 第3学年 詩のくふうを楽しもう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：詩を読んで気付いた言葉の響きや並べ方を、自分の表現を考える手掛かりにする。詩の本文を写して自作としない。B(1)オ・C(1)オの学習として、観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直し。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、書いた詩のよいところについて感想を伝え合い、自分の表したかった様子と表現の関係を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オ・C(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直しを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オ・C(1)オに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：作品の語を入れ替えただけで自分の詩とする、気付いた工夫と自作の関係を説明しない。これに対して、独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。〔知識及び技能〕(1)クとB(1)オ・C(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オ・C(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直しは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オ・C(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オ・C(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。完成品だけでなく、観察したこと、自作の詩、使った言葉の工夫と読み合い後の見直し。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「同じ様子でも、言葉の並べ方を変えるとどんな感じになりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オ・C(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

